

【様式1】

団体名  <b>糸満市立米須小学校</b>	連絡先 TEL: 997-4511 Eメール: komesu@komesu.city.itoman.okinawa.jp
-----------------------------	---

1 実践事項 ( ② )

「満足度と成績アップは、授業中の教師と児童の実態把握と学びの追究  
～誰もが学ぶ授業をめざしたカリキュラムマネジメントの実践～」

2 実践内容

- ・子どもが学ぶというのは、「どのような過程で行われるのか」ということについて、全教師が目の前の児童を見取り学んでいる時や学べていない時の姿を分析した。(図1)
- ・月2回の授業研を行い、全教師が省察的(⇔評価的(～はこうしたほうがよかった)や(～すべきでない)に見合うのではなく、学び・気づきを得るため)に授業を見合った。(図2)
- ・授業研後、放課後にリフレクション(気づきの共有会)を行い、教師や児童の学ぶ姿の事実を基に、学んだことを共有した。(図3)
- ・「子どもが学ぶ」ということの理論的な勉強会を行った。

3 説明資料(写真、グラフ、図、表など)



図1 こどもたちの学び合う姿



図2 互いの気づきを共有する教師

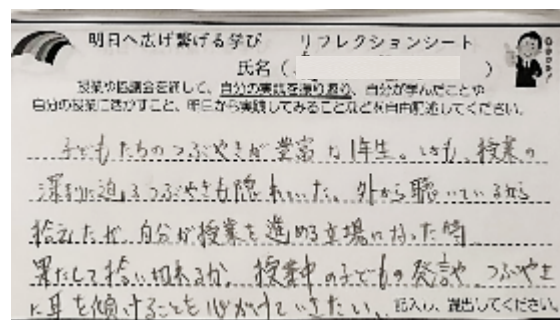


図3 共有会後の職員のリフレクションシート

4 成果

○全国学力学習状況調査において、本校 国語 72 % (+ 7.3 P) 算数 74 % (+ 3.8 P) (全国比)

○学校評価でのアンケートから (12月)

- ・あなたは、学校が楽しいですか。 「肯定的な意見(以下同じ)」 (児童 89.6%) (保護者 95.5%)
- ・あなたは、「学び合い」(ペアやグループ)の授業が楽しいですか。(児童 92.3%) (保護者 81.8%)
- ・あなたは、授業中に安心して学んでいますか。(児童 91.5%) (保護者 90.9%)
- ・あなたは、授業中に自分のペースで学んでいますか。(児童 93.0%) (保護者 94.0%)
- ・あなたは、授業中に仲間は自分を大切にしていると感じることが多いですか。(児童 86.1%) (保護者 96.9%)

○担任が子どもの学びの姿を見取ることで、日々授業アップデートを重ね、児童一人一人が学べるようになってきた。

○月2回の授業研を行い、お互いに授業を見合って「児童が学ぶときはどんな時」で、「学びにつまずくときはどんな時」なのか、実態把握に取り組んできたので、児童の特性などをつかみ授業デザインに生かすことができるようになってきた。

○お互いの授業を見合うことが楽しみにしている雰囲気が出てきた。→(見合うことが成長の糧)

5 課題

- 教職員の本校勤務年数も違い、それぞれ見取る力がちがうので今後も継続していく必要がある。
- 本校の学びの共同体としての取り組みが3年目を迎え、児童一人一人が主体的・対話的で深い学びの授業デザインの構築に努めてきたが、今後も同じ理念で続けていけるかどうか懸念である。